

## ベトナムとタイの日系物流事業者の進出実態からみた特徴

物流問題分析チームリーダー 岩尾 詠一郎

### 1. はじめに

本報告では、まず、ベトナムとタイの日系企業の進出と撤退の経年変化を明らかにする。次に、これら地域に進出している日系の物流事業者の実態を明らかにする。

### 2. ベトナムとタイの日系企業の進出・撤退<sup>1)</sup>

本節では、海外進出企業総覧 [国別編] 2017年版のデータ<sup>2)</sup>を用い、2008年から2016年の日系企業のベトナムとタイに進出と撤退した現地法人数の変遷を明らかにする。

なお、本節における進出とは、当該国に新規に進出した現地法人数である。一方、撤退とは、当該国から撤退した現地法人数と当該国で被合併された現地法人数の合計を示している。また、ここで示している現地法人数は、日本企業の出資比率の合計が10%以上の現地法人、海外支店・事務所である。

#### 2-1 ベトナムとタイの日系企業の進出の実態

2008年から2016年のメコン地域への日系企業の進出実態を見ると、ベトナム、タイへは、毎年進出している。

進出企業数の推移を見ると、ベトナムは、2010年まで減少していた。その後2013年まで増加し、2014年からは、減少に転じている。同様に、タイは、2009年まで減少していた。その後2013年まで増加し、2014年からは、減少に転じている。

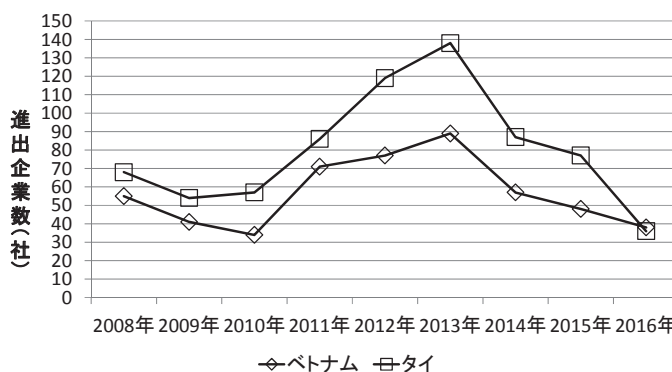


図1 ベトナムとタイの日系企業の進出数<sup>2)</sup>

これらの結果から、2013年頃までは、多くの日系企業が、進出していたが、それ以降は、進出企業数が少なくなっており、近年では、進出企業数が少ないことがわかる。(図1)

#### 2-2 ベトナムとタイの日系企業の撤退の実態

2008年から2016年のベトナムとタイの日系企業の撤退実態を見ると、タイは、毎年、日系企業が撤退している。一方、ベトナムは、2008年、2011年は撤退が無かった。

撤退企業数の推移を見ると、タイは、2009年に減少したが、2010年は増加に転じた。しかし、それ

以降は、減少したが、2016年は増加に転じた。ベトナムは、2012年以降、減少が続いていたが、2016年は増加に転じた。

これらの結果から、ベトナムは、タイと比較すると、撤退する日系企業数が少ないことが明らかになった。一方、タイは、撤退企業数はある一定数あり、2010年以降は減少が続いていたが、2016年は増えていることが明らかになった。(図2)

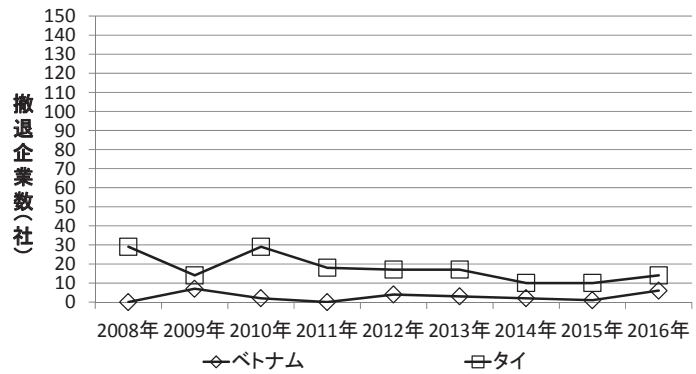


図2 メコン5カ国への日系企業の撤退数<sup>2)</sup>

### 2-3 ベトナムとタイの日系企業の進出・撤退の実態

ベトナムとタイの日系企業の進出・撤退を見ると、日系企業のベトナムとタイへの進出では、両国とも2013年頃までは、多くの日系企業が、進出していた。しかし、それ以降は、進出企業数が少なくなっており、近年では、進出企業数が少ない。一方、日系企業のベトナムとタイからの撤退では、ベトナムは、タイと比較すると撤退する日系企業数が少ない。また、タイは、撤退企業数が2010年以降は減少が続いていたが、2016年は増加に転じている。ただし、両国とも進出企業数より撤退企業数が少ない。以上のことから、全体としては、これらの国に進出している企業数は、毎年増加していることが明らかとなった。

## 3. ベトナムとタイの日系物流事業者の進出実態

本節では、海外進出企業総覧 [会社別編] 2017年版のデータ<sup>3)</sup>を用い、2016年時点にメコン地域のベトナム、タイへ進出している、日系の物流事業者の進出企業数と進出時期から進出実態を明らかにする。

なお、ここで述べている物流事業者は、貨物運送事業者、海運事業者、倉庫・物流関連事業者をいう。

### 3-1 ベトナムの日系物流事業者の進出実態

#### (1) ベトナムの日系物流事業者の事業分類の特徴

2016年時点でベトナムに進出している日系の物流事業者を①貨物運送事業者、②海運事業者、③倉庫・物流関連事業者の3つの事業分類に集計した。

その結果、2016年時点では、貨物運送事業者の進出が最も多く、全体の約49.2%であり、次に多いのは、倉庫・物流関連事業者で全体の約40.7%を占めている(図3)。

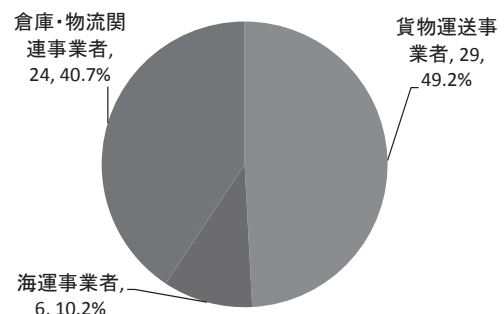


図3 事業分類別のベトナムに進出している日系物流事業者の事業者数<sup>3)</sup>

## (2) ベトナムの日系物流事業者の進出時期の特徴

2016年時点でベトナムに進出している日系物流事業者68社の進出時期を進出年ごとに示した。なお、本集計では、進出年が不明であった2社のデータは除いている。

その結果、最も古く進出している企業は、1987年であった。進出企業数が多いのは、2006年の7社で、全体の約10.3%を占めている。次に多いのは、2005年、2008年、2011年、2013年の5社で、それぞれ全体の約7.4%を占めている。(図4)

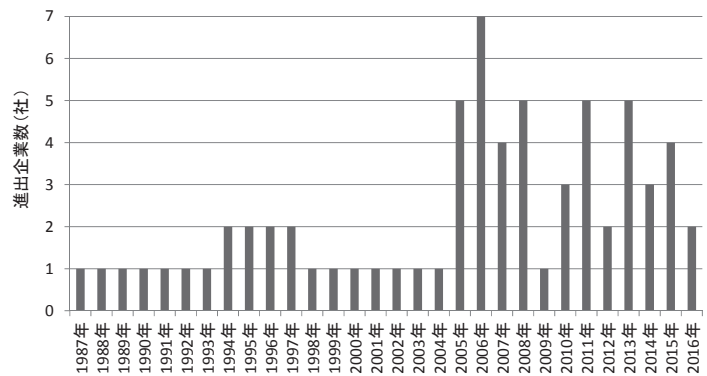


図4 進出年別のベトナムに進出している日系物流事業者数<sup>3)</sup>

## (3) ベトナムの日系物流事業者の事業分類別の進出時期の特徴

2016年時点でベトナムに進出している日系物流事業者の事業分類別・進出時期を示した。

その結果、2016年時点に進出している日系の物流事業者のうち、倉庫・物流関連事業者は1987年から、貨物運送事業者は1994年から、海運事業者は2005年からベトナムに進出している。

その後、貨物運送事業者は、2004年と2009年を除き進出している。倉庫・物流関連事業者は、1994年、1995年、1998年～2003年、2012年、2015年を除き進出している。海運事業者は、2005年、2006年、2007年、2012年、2015年のみ進出している。(図5)

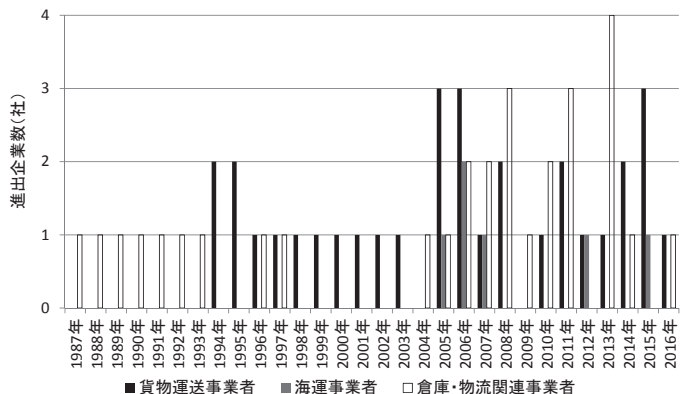


図5 事業分類別・進出年別のベトナムに進出している日系物流事業者数<sup>3)</sup>

## 3-2 タイの日系物流事業者の進出実態

### (1) タイの日系物流事業者の事業分類の特徴

2016年時点でタイに進出している日系物流事業者を3つの事業分類に集計した。

その結果、2016年時点では、貨物運送事業者の進出が最も多く、全体の約47.5%であり、次に多いのは、倉庫・物流関連事業者で全体の約31.7%を占めている(図6)。

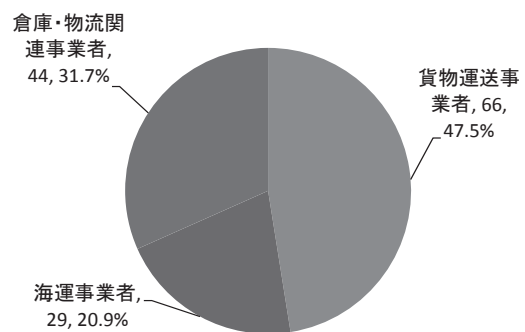


図6 事業分類別のタイに進出している日系物流事業者の事業者数<sup>3)</sup>

## (2) タイの日系物流事業者の進出時期の特徴

2016年時点でタイに進出している日系物流事業者131社がタイに進出した時期を進出年別に集計した。なお、本集計では、進出年が不明であった7社のデータは除いている。

その結果、最も古く進出している企業は、1964年であった。進出企業数が多いのは、1989年の10社で、全体の約7.6%を占めている。次に多いのは、1990年の8社で、全体の約6.1%を占めている。(図7)

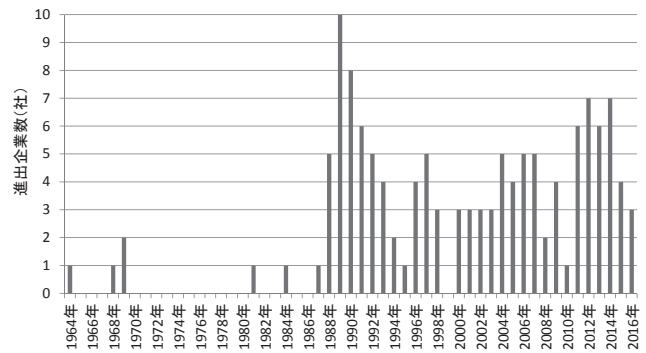


図7 進出年代別のタイに進出している日系物流事業者数<sup>3)</sup>

## (3) タイの日系物流事業者の事業分類別の進出時期の特徴

2016年時点でタイに進出している日系物流事業者の事業の分類別に進出時期を示した。

その結果、海運事業者は1964年から、倉庫・物流関連事業者は1969年から、貨物運送事業者は1984年から進出している。

その後、貨物運送事業者は、1985～1987年、1995年、1999年、2003年を除き進出している。海運事業者は、1965～1967年、1970～1980年、1982～1987年、1998～2001年、2004年、2005年、2008～2010年、2015年、2016年に進出していないことがわかる。倉庫・物流関連事業者は、1987～1992年、1996年、1998年、2000年、2003～2007年、2009年、2012～2015年に進出しており、進出が2000年以降に多いことが明らかとなった。(図8)

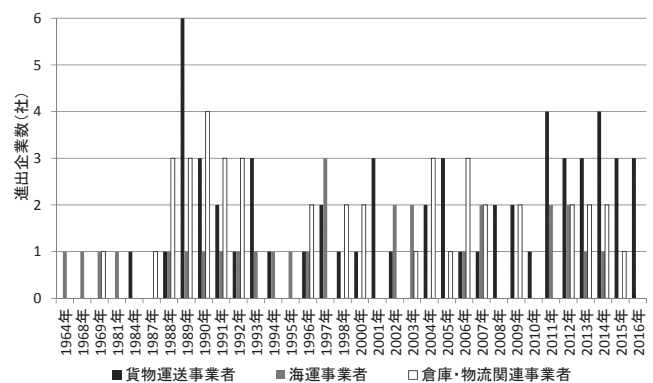


図8 事業分類別・年代別のタイに進出している日系物流事業者数<sup>3)</sup>

### 3-3 ベトナムとタイの日系物流事業者の進出実態の比較<sup>1)</sup>

2016年時点でベトナムとタイに進出している日系物流事業者を事業分類で見ると、最も多いのは、両国とも貨物運送事業者で、次に多いのは、倉庫・物流関連事業者であった。このことから、ベトナムとタイに進出している日系物流事業者には、事業分類別の特徴が見られなかった。

日系物流事業者の進出時期は、ベトナムよりタイの方が進出時期が早く、事業分類で見ると、ベトナムには、倉庫・物流関連事業者が先に進出している。一方、タイでは、海運事業者が先に進出しており、ベトナムとタイで違いが見られた。

なお、2016年現在ベトナムとタイに進出している物流事業者の進出年を比較すると、タイは、1988年から進出している企業が多いのに対して、ベトナムは、2003年頃から進出している企業が多いことが明らかとなった。(図9)

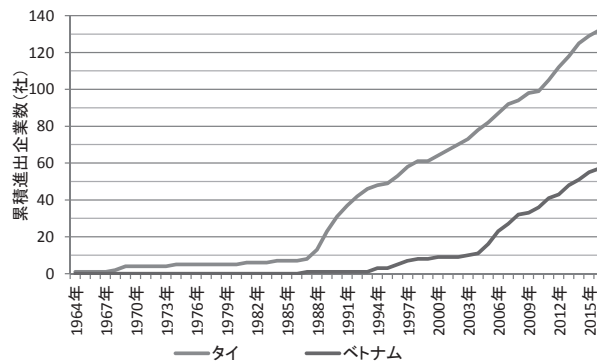


図9 ベトナムとタイの進出している日系物流事業者の進出年の比較<sup>3)</sup>

#### 4. ベトナムとタイに進出している日系物流事業者の特徴

本節では、海外進出企業総覧〔会社別編〕2017年版のデータ<sup>3)</sup>を用い、ベトナムとタイに進出している日系物流事業者の特徴を、事業分類別、進出国別に示していく。

##### 4-1 事業分類別の特徴

事業分類別に進出国を見ると、貨物運送事業者と倉庫・物流関連事業者は、ベトナムのみの進出、タイのみの進出、ベトナム・タイの両国の進出のすべてがある。特に、ベトナムのみに進出している企業の割合が低く、全体では、約10.7%のみを占めている。(表1、表2)

表1 日系物流企業の事業分類別・進出国別企業数

	ベトナム	タイ	ベトナム・タイ	合計
貨物運送事業者	3	17	12	32
海運事業者	0	9	10	19
倉庫・物流関連事業者	6	16	11	33
合計	9	42	33	84

表2 日系物流企業の事業分類別・進出国別の進出割合

	ベトナム	タイ	ベトナム・タイ	合計
貨物運送事業者	9.4%	53.1%	37.5%	100.0%
海運事業者	0.0%	47.4%	52.6%	100.0%
倉庫・物流関連事業者	18.2%	48.5%	33.3%	100.0%
合計	10.7%	50.0%	39.3%	100.0%

##### 4-2 進出国別の特徴

次に、進出国別に、進出している日系物流事業者の特徴を見る。その結果、ベトナムでは、主に倉庫・物流関連事業者の進出が多く、全体の約66.7%を占めている。タイでは、貨物運送事業者の進出が多く、全体の約40.5%を占めている。一方、ベトナム・タイの両国に進出している企業の事業分類を見ると、ほぼ同数であることが明らかとなった。(表1、表3)

表3 日系物流企業の進出国別・事業分類別の進出割合

	ベトナム	タイ	ベトナム・タイ	合計
貨物運送事業者	33.3%	40.5%	36.4%	38.1%
海運事業者	0.0%	21.4%	30.3%	22.6%
倉庫・物流関連事業者	66.7%	38.1%	33.3%	39.3%
合計	100.0%	100.0%	100.0%	100.0%

#### 4-3 ベトナムとタイに進出している日系物流事業者の事業分類別、進出国別の特徴

ベトナムとタイに進出している日系物流事業者を、事業分類別、進出国別に示した結果、ベトナムは、主に倉庫・物流関連事業者の進出が多く、タイは、貨物運送事業者の進出が多く、ベトナム・タイの両国に進出している日系物流事業者は、事業分類にかかわらず、ほぼ同数の企業が進出していた。

以上のことから、ベトナムとタイでは、主に進出している日系物流事業者の事業分類が異なっているが、両国に進出している日系物流事業者は、事業分類別の特徴が見られないことが明らかとなった。

#### 参考文献

- 1) 白桃書房、「メコン地域におけるビジネス教育－第6章メコン地域における物流の実態」、2018年3月
- 2) 東洋経済新報社、「2017 海外進出企業総覧 [国別編]」、2017年4月
- 3) 東洋経済新報社、「2017 海外進出企業総覧 [会社別編]」、2017年5月